

◎景気ウォッチャー調査[2020年7月]

2020年7月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を4.8ポイント上回る43.1となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「特別定額給付金支給の限定的な追い風効果や、3～5月の自粛の反動効果で景気は良くなっている。」(百貨店)等の理由から、「良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.2ポイント上回る45.0となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「3か月前の4月は新型コロナウイルスの影響で受注量は通常より80%以上少ない状況であったが、7月中旬より夜勤が再開し、稼働日数も通常に戻っている。」(輸送用機械器具製造業)、「前月に比べ、来客数が約8%増、成約件数が約5%増となっている。」(不動産業)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を13.9ポイント上回る42.6となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「3か月前は新型コロナウイルスが全国へ広まるなかで求職者や求人者の動きが制限されていく傾向にあったが、その頃と比べると、求職者や求人者の動きが戻ってきている。」(人材派遣会社)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を10.3ポイント上回る30.9となった。

	7月	6月	前月差
合計	43.1	38.3	4.8
家計動向関連	45.0	43.8	1.2
企業動向関連	42.6	28.7	13.9
雇用関連 (参考値)	30.9	20.6	10.3

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を8.9ポイント下回る38.1となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスや消費税の引上げの影響で景気はやや悪くなる。」(家電量販店)、「新型コロナウイルス第2波の到来や冬のボーナス支給額の減少に対する懸念もあり、客の買い控えムードが加速する。」(百貨店)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を12.2ポイント下回る38.4となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少したため、前月を1.4ポイント上回る40.4となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「緊急事態宣言解除後、新型コロナウイルスの感染者が拡大し、経済とのバランスをどう保つのがはっきりしないなか、投資も含め様子見状態が続くため、景気の先行きは不透明である。」(民間職業紹介機関)、「新型コロナウイルスの影響で、特に製造業、宿泊業、飲食サービス業では雇用環境が急激に悪化し、求人募集の取りやめや採用計画の見直しをする事業所が見受けられているため、今後景気は悪くなる。」(職業安定所)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を7.3ポイント下回る30.9となった。

	7月	6月	前月差
合計	38.1	47.0	-8.9
家計動向関連	38.4	50.6	-12.2
企業動向関連	40.4	39.0	1.4
雇用関連 (参考値)	30.9	38.2	-7.3